

平成 30 年度 第2次総合計画 施策マネジメントシート
(平成 29 年度の実績評価)

作成日 平成 30 年 7 月 25 日
更新日 平成 年 月 日

総合計画体系	政策No.	4	政策名	心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成	施策主管課	教育委員会 文化財課
	施策No.	20	施策名	歴史・伝統文化の振興	施策主管課長名	森本 浩人
施策関連課名			生涯学習課			

1 施策の目的

① 対象(誰、何を対象としているのか) * 人や自然資源等	② 意図(この施策によって対象をどう変えるのか)
市民 市内の指定・登録文化財、埋蔵文化財、その他の文化財	市民が、ふるさとの歴史を知り、誇りに思い、市内の歴史的資源を、新たな地域文化創造の糧としてもらえるようになる。 市民共有の財産である市内の歴史的資源を、良好な形で次代へ伝える。
対象の大きさを表す指標 ⇒ 2-① 対象指標	意図の達成度を表す指標 ⇒ 2-② まちづくり指標

2 指標の推移、指標設定の根拠等

指標区分、指標名		単位	数値区分	基本計画現況値	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
① 対象指標	ア 市人口	人	見込み値			72,322	72,001	71,680	71,359	71,038	
			実績値	72,963	72,715	72,305	72,018	71,880			
	イ 指定・登録文化財、埋蔵文化財	件	見込み値			633	633	633	633	633	
			実績値		633	633	636	635			
	ウ		見込み値								
			実績値								
② まちづくり指標	A 市内の文化財や伝統芸能の保護や活用に関する満足度	%	目標値			34.4	34.8	35.2	35.6	36.0	
			実績値	34.0	35.9	33.2	38.8	35.7			
	B 市内の歴史的資源を、守り伝えたいと回答した市民の割合	%	目標値			80.4	80.8	81.2	81.6	82.0	
			実績値	79.8	83.9	79.2	79.5	81.6			
	C 指定文化財等がき損・破壊・盗難等がなく、適切に維持された件数	件	目標値			633	633	633	633	633	
			実績値	633	633	633	636	635			
	D		目標値								
			実績値								
	E		目標値								
			実績値								
	まちづくり指標設定の考え方		A: 文化財の保護に関する市民の評価を示す。 【市民アンケートの『文化財や伝統芸能の保護や継承活動について、満足していますか』において、「満足している」「やや満足している」と回答した人の割合】 B: 歴史的・文化的資産への市民の関心を示す。 【市民アンケートの『市の文化財や伝統文化を地域の宝として次世代に伝えていくことは重要だと思いますか』において、「思う」「まあまあ思う」と回答した人の割合】 C: 文化財等の保存に関する成果を示す。 【市内に所在する指定文化財及び埋蔵文化財の件数】								
	目標値の設定の根拠(前提条件や考え方等)		A: 現況値から5年間で約2%の増加を見込み設定 B: 地域の文化財についての周知活動を推進し5年間で約2%の増加を見込み設定 C: 指定文化財等の全てが適切に維持されていることを目標値とする								

3 予算等の推移

※当初予算額。骨格予算の年度は6月補正後

区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
関連事業本数	23	24	25	25	24	22	
関連事業予算額(単位:千円)	40,969	51,674	54,238	46,255	61,620	267,484	
(予算額の内訳)	国庫支出金	0	0	0	0	0	0
	県支出金	10,084	14,617	11,907	9,641	9,155	7,254
	地方債	0	0	0	0	8,000	205,200
	その他	17,527	19,116	19,767	20,519	23,779	25,862
	一般財源	13,358	17,941	22,564	16,095	20,686	29,168

4 評価結果(施策の有効性評価)

① 目標達成度評価 (目標値と実績値との比較)

- 目標値より高い実績値だった
- 目標値どおりの実績値だった
- 目標値より低い実績値だった

※左記の理由

市民アンケートにおいて、数値的には、目標値をわずかに上回っている。指定文化財については、特に樹木について、温暖化の影響か、生育状況等の悪化がみられ、管理者と対応を協議している。一方で、近年所有者のご理解により、国登録有形文化財という形で、建造物の価値が保たれる事例が増えている。

② 時系列比較(基本計画現況値からの推移)

- 成果がかなり向上した
- 成果がどちらかと言えば向上した
- 成果はほとんど変わらない(横ばい状態)
- 成果がどちらかと言えば低下した
- 成果がかなり低下した

※左記の理由

経年で見ると、市民アンケートの数値は、ほとんど横ばいであり、著しい増加、または減少傾向は見取れない。施策の効果の浸透により、まだまだ向上の余地はあるといえる。

③ 他自治体との成果実績値の比較

- かなり高い成果水準である
- どちらかと言えば高い成果水準である
- ほぼ同水準である
- どちらかと言えば低い成果水準である
- かなり低い成果水準である

※左記の理由

本市域は、洪水や土石流、干ばつ等、水に関わる厳しい自然環境から、従来遺跡や文化財に乏しい地域と認識されてきた。しかし90年代以降、厳しい自然環境にありながらもこれを克服し、力強く生きてきた先人の足跡が数多く発見されたことにより、県内他地域に遜色ない豊かな歴史を有することが明らかになっている。ただし、もともと「何もない」というイメージからスタートしているため、市民の中には、まだまだこのような認識をもてない方もおり、市民意識としては、ようやく他の自治体に追いついたといった感じではないだろうか。

④ 住民の期待する成果水準との比較

- かなり高い成果水準である
- どちらかと言えば高い成果水準である
- ほぼ同水準である
- どちらかと言えば低い成果水準である
- かなり低い成果水準である

※左記の理由

最新の市民アンケートでは、市の行う文化財や伝統芸能の保護や継承活動についてどちらともいえないという回答が57.3%と、約6割を占めており、いわば無関心層、我々の施策に基づく事業に触れたことのない市民がまだ数多くいることが看取される。市民に、市の歴史的・文化的資源が今後のまちづくり、人づくりに活かすことができる資産であるという認識をもって頂けるようさらなる努力が必要である。

5 まとめ(課題の抽出とその解決に向けた取り組み)

施策の課題 (現状の問題点)	課題を解決し、施策の実現を図るための取り組み方針	
	課題解決の方向性	具体的な改善策・取り組み内容
・市域の多様な歴史的、文化的資産に気づき、これらを自らの資産として保護し、その資源を積極的に活用しようとする市民の数が少なく、関心も高くない。	・市民参加機会の促進と協働による地域の歴史的・文化的資産のさらなる掘り起こしを市域各地域で実施していく。これにより、自らの周囲に地域の個性があり、ふるさと意識の源泉で又、さらには様々な形で活用可能な、資産が数多くあることへの「気づきの促進」を図ることと、顕在化したこれら資産や情報を市民が気軽に得ることができる「しくみ」づくりを展開する。	・平成29年度から本格的に事業実施している「ふるさと〇〇博物館(フィールドミュージアム)推進事業」を推進する。その過程で、市民参加型のワークショップや、「まち歩き(=フィールドワーク)」等を展開し、地域の人々が自らの地域に眠る、歴史的・文化的資産の存在と価値に気付いてもらうように努める。またさらには、市民が気軽に文化財情報や歴史的・文化的資産にアクセスすることができるように、公開可能な形で新たなアーカイブを構築する。